

授業科目	科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
がん薬物療法看護演習	2単位60時間(30コマ) 演習科目	博士前期1年次 後期開講	可・不可 「下記7.参照」
科目責任者	鳴井ひろみ		
担当者	鳴井ひろみ、千葉典子、高屋敷麻理子、小野晃子、本間ともみ		
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p><ねらい> がん化学療法を受ける患者に生じる有害事象を早期発見し、対処方法およびがん化学療法に伴う患者・家族の苦悩を緩和する方法をエビデンスをもとに検討し、患者・家族の生活の質向上のためのセルフケア能力を高める方略を探究する。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がん化学療法を受ける患者・家族のセルフケア能力を高めるための支援のあり方について説明できる。 2) がん化学療法を受ける患者の意思決定を支える支援のあり方について説明できる。 3) 外来がん化学療法を受ける患者・家族の生活を支援するための病院から地域医療への連携および多職種との協働の実際について説明できる。 4) がん化学療法を受ける患者・家族のニーズに基づき、セルフケア能力を高めるための教育支援について計画を立案し実施・評価できる。 5) がん化学療法を受ける患者・家族のセルフケア能力を高めるためのグループアプローチの実際とファシリテーターとしての役割を理解できる。 6) 患者・家族ががん化学療法を継続するために必要ながん看護専門看護師としての介入について検討できる。 			
<p>2. 授業計画・内容</p> <p>1～2回： がん化学療法の有害事象とマネジメント、セルフケア支援：骨髄抑制（小野・鳴井）</p> <p>3～4回： がん化学療法の有害事象とマネジメント、セルフケア支援：消化器症状（小野・鳴井）</p> <p>5～6回： がん化学療法の有害事象とマネジメント、セルフケア支援：末梢神経障害、皮膚障害（小野・鳴井）</p> <p>7～8回： がん化学療法を受ける患者・家族の心理社会的特徴と援助（鳴井）</p> <p>9～12回： がん化学療法を受ける患者・家族の生活の質の向上のために必要な看護、セルフケア能力向上のための支援方法について文献検討し、プレゼンテーション資料を作成する。（鳴井・本間）</p> <p>13～14回： がん化学療法を受ける患者の意思決定支援（鳴井）</p> <p>15～18回： 外来がん化学療法の看護 フィールドワーク（静岡県立静岡がんセンター）（鳴井）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来がん化学療法を受ける患者への看護師の活動の実際 ・外来薬剤部との連携、抗がん剤の取り扱い <p>19～20回： 外来がん化学療法を受ける患者・家族の生活を支援するための病院および地域の多職種との連携・協働（鳴井・千葉）</p> <p>21～24回： がん化学療法を受ける患者・家族に対する教育（鳴井・本間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いたセルフケアのための患者・家族に対する教育・演習 ・学習ニーズをアセスメントし、学習計画を立案・実施（模擬授業）・評価する。 <p>25～28回： グループアプローチの実際（鳴井・本間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートグループ、セルフヘルプグループの実際の見学 ・グループアプローチがもたらす効果および課題の討議 ・ファシリテーターの役割 <p>29～30回： がん化学療法を継続するために必要ながん看護専門看護師としての介入について検討する。（プレゼンテーション）（鳴井・高屋敷）</p>			
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>講義の中で適宜紹介する。</p>			
<p>4. 成績評価方法</p> <p>講義・ゼミへの取り組み状況 20%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 50%、レポート 30%で総合的に評価する。</p>			

5. 受講要件

「がん薬物療法看護論」を履修済みの者、がん看護専門看護師コースの学生は必修

6. 社会人学生に対する配慮

相談があれば個別に対応する。

7. その他

- 課題内容について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨むこと。
- 状況に応じて Webex meeting または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。